



主な意見交換

現地見学終了後、意見交換では「あさひばし周辺の景観および水辺環境について」及び「地元小学校の総合学習支援について」を議題に、参加者それぞれの立場に基づいたさまざまな意見が交わされました。

旭橋周辺の 景観および水辺環境について

市民に広く認知され、利用しやすい方法を

- 「子どもの水辺」の対象エリアであるフラワーランド周辺は、旭川市の100年記念事業で整備され、噴水周辺が憩いの場として広く親しまれている一方、「福祉の川づくりモデル事業」の対象地域として、車イスで利用できるトイレや段差の少ない階段、スロープ、点字ブロック、花壇なども整備されているが、市民の認知度は低いようだ。
- フラワーランド上流左岸の駐車場を含む公園への入口がわかりづらい。標識や夜間照明等の整備が必要。
- その駐車場は管理者がいないので、公園利用者以外の駐車も多いようだ。
- 「みずウォーク」旭川大会のスタート&ゴール地点でもあり、多くの人々が芝生の上で休めるなど、とても評判がいい。
- 牛朱別川は数年前まで臭いのある川だったが、今回来てみて、随分きれいになっていたので驚いた。川面には水鳥が泳ぐ姿も見られた。
- 牛朱別川管理橋に名前を付けたら、市民に親しみを持たれるのではないかと。

治水や防犯にも配慮した水辺空間を

- 旭橋のすぐ上流に木々が鬱蒼と繁殖している。そこは石狩川と牛朱別川の合流点で洪水時には危険。治水効果を妨げる恐れがある。
- また、その木々によって周辺の見通しが悪く、防犯面でも問題がある。
- 例えば、あまり大きくならず、下枝の出ないような木に植え変えていくと、治水効果や見通しも良くなり、将来的な維持管理の手間も軽減できるのではないかと。

安全に配慮した楽しい水辺を

- 子どもが最も喜ぶのは、旭橋下流右岸のドリームランド。フラワーランド周辺の水辺は、自然の中でゆったりとくつろげるようなコンセプトのように思う。
- 川岸の石ころが大き過ぎるので、小さな砂利を敷くなどして、裸足でも歩けるようにすると良い。
- 神楽岡公園の忠別川のように、実際に水の中に入っていける仕組みをつくると良い。
- 以前は河川敷で炊事遠足などをしていたが、現在、火の使用等は可能なか。(※河川公園内は禁止となっているが、河川敷は可能。但し、マナーの問題も)
- 車イスだと危険な場所があるため、早急に補修するか、絶対に立ち入れない措置をすべき。
- 石狩川本流は水深が深く、流れも急なので、水流が穏やかな右岸側の金星橋下流周辺を子ども達が遊べる場所とするのはどうか。
- 旭橋上流左岸は、川の蛇行によって金星橋下

流右岸と同じ性質を持ち、対岸が早瀬となるため、ここに州が形成されていくと同じような状態になると思う。本流は危ないので、この州にせせらぎをつくってみてはどうか。

地元小学校の総合学習支援について

地域が連携し、子ども達を育てていける環境づくりを

- 川は貴重な自然体験の場であり、子ども達の感性を磨き、想像力を養うのに最適な場所。特に旭橋周辺の小学校に対しては、「川のおもしろ館」や石狩川・牛朱別川に近いという利点を生かし、福祉を含めた総合学習などの取り組みを地域がどのようにバックアップできるかを考えていきたい。
- 小学校の総合学習には、「いろいろなことを幅広く学習させたい」との観点もあり、川というテーマのみで授業を展開するのは難しい側面もある。
- 「川のおもしろ館」に川に関するデータベースがあると、先生や子ども達も利用しやすく、石狩川の上流から河口まで幅広く調べられるので良いと思う。
- 旭川河川事務所では、「総合的な学習の時間」への支援として、水質調査等が体験できる「川の出前講座」を行うとともに、各種問い合わせには資料提供も併せて対応している。
- 川に興味のある子ども達が集まり、自発的に活動する際には、地元のNPOや河川事務所にもバックアップしてもらいたい。

「あさひばし子どもの水辺」登録対象エリアについて(フラワーランド周辺)



座長を務める
北海道教育大学の山形名誉教授



旭川開発建設部の
一条課長補佐



旭川河川事務所の小松課長



(財)旭川河川環境整備財団の
庄司専務理事



(左から)一条、岡部、植村、櫻原、加藤氏



(左から)千代、清水、庄司、増子氏